大阪城
2021 2/1 (月) 14138号
全港湾 西成分会
ごえん 6647-4947

昨年の早い段階で、ニューヨークでは、コロナと死者がふえつづけ、金持ちたちが街から逃げだしている！とテレビでやっていた。イアン・ブレマーという世界の政治経済を占うことを職業としている兄さんが、しかし、オレはニューヨークにとどまり、逃げない人だ！としゃべっていた。総務省の発表では、昨年1年間で、東京では、40万人が東京から出て行ったと発表している。

一ミリの一万分の一以下のタンパク質の粒子が多くの人間を動かしている。軽薄短小の時代がやってくる！といわれ始めたのは、1987年ぐらいという。今から30年少し前。鉄とか巨大産業から半導体などミクロの微小な仕事が力をもつと予想したのだろう。コロナウィルスも軽薄短小の代表、エースなのかもしれない。

スモール、イズ、ビューティフル。小さいことは美しいとかいっていただろうか。スモール、イズ、パワーもありそうだ。小さいことは力であるとなる。普通の人間一人も、ほんまは、すごい力を秘めているのだろう。権力者や有名人だけが力があるように思わされている

緊急事態宣言3月7日まで延長へ

政府が**新型コロナウイルス**の感染拡大に伴い発令している緊急事態宣言について、2月7日までの期限を延長する調整に入った。栃木県など新規感染者数が減少している地域は解除も含めて検討する。延長幅は3月7日まで1カ月程度、感染状況や医療提供体制が改善されれば、解除を前倒しする方針。週明けの感染状況を踏まえて最終判断する。 対象地域の新規感染者は減少傾向にあるが、田村憲久厚生労働相は29日の記者会見で「足元で(新規感染者の)数が減ってきているからといって予断は許さない」と述べた。 政府は病床の逼迫(ひっぱく)度などが改善されなければ解除は難しいとみており、政府高官は「新規感染者数が減っても入院者数は簡単に減らない。医療体制の逼迫具合を見るには、今後も感染者数が落ち続ける見通しが必要だ」と語った。

緊急事態宣言の対象は栃木、東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、岐阜、大阪、京都、兵庫、福岡の11都府県。

政府は新型コロナ感染症対策分科会が示す基準で最も深刻な「ステージ4(爆発的感染拡大)」から「ステージ3(感染急増)」への移行を宣言解除の目安としている。生活圏が一体となっている首都圏、中京圏、関西圏は1県で感染状況が改善しても、単独での解除は見送る。

一方、新型コロナ対策の実効性を強化するための**新型コロナ特別措置法と感染症法の改正案**が29日、衆院本会議で審議入りした。菅義偉(すが・よしひで)首相は「事業者や個人の権利に十分配慮しつつ、罰則規定を設けるなど、対策の実効性を高めるために必要な見直しを盛り込んだ」と述べた。

本会議に続き、衆院内閣委員会で感染症の専門家を招いた参考人質疑も実施。2月1日に衆院を通過し、参院での審議を経て**3日に成立する**見通し。産経新聞 1/29